

第56回景況アンケート調査 結果報告書

(令和4年10月28日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 4年 7月～ 9月期》実績
《令和 4年10月～12月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和4年9月22日(木)～令和4年10月20日(木)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業207社
(うち回答企業数154社：回答率74.4%)

4. 回答企業数

製造業	56	社
繊維工業	17	社
建設業・設備工事業	21	社
卸売業・小売業	29	社
飲食業・サービス業	31	社
計	154	社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

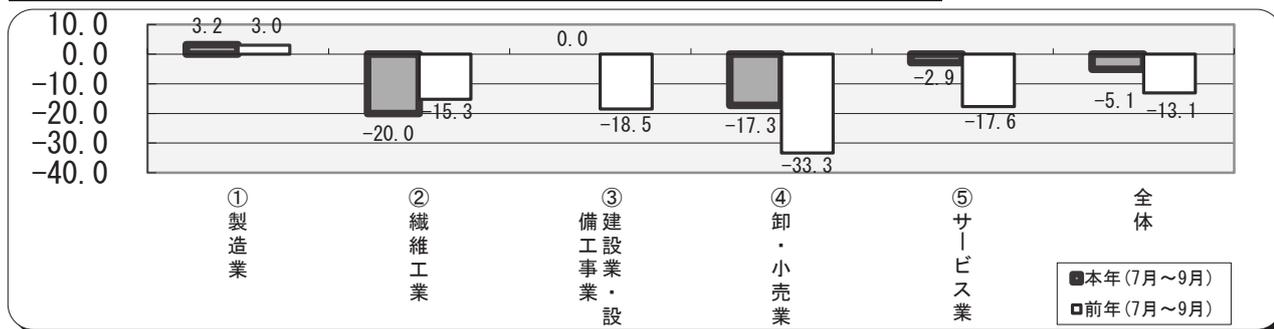
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（7月～9月）の景況について

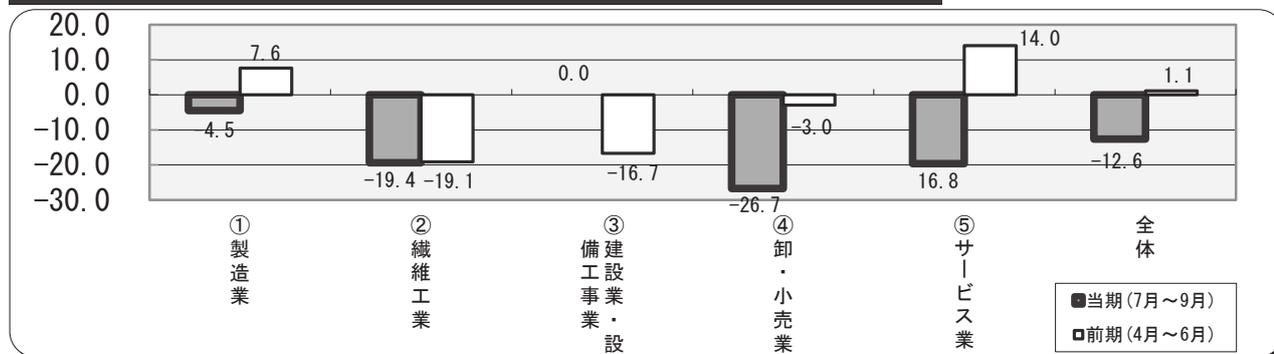
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲5.1ポイント（前年同期▲13.1）と、前年同期に比べて8ポイント上昇した。業種別では、製造業はほぼ横ばいであるが、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業は前年同期と比べて回復している傾向にある。繊維工業は4.7ポイント減少でマイナス幅が拡大する結果となった。

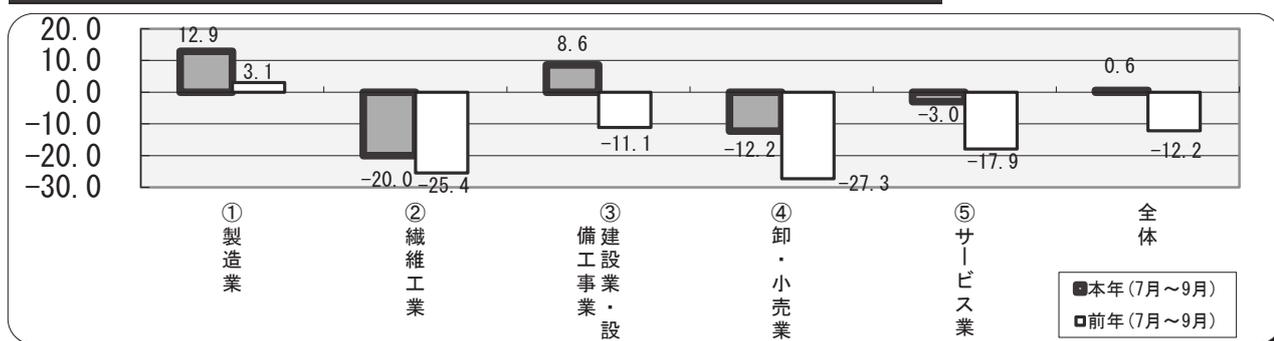
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲12.6ポイントと、前期（前3ヵ月間1.1）に比べて13.7ポイント下降しマイナスへと転じた。業種別では、製造業とサービス業がプラスからマイナスへ転じており、繊維工業は横ばい、卸・小売業は23.7ポイント減少しているものの、建設業・設備工事業は16.7ポイント上昇した。

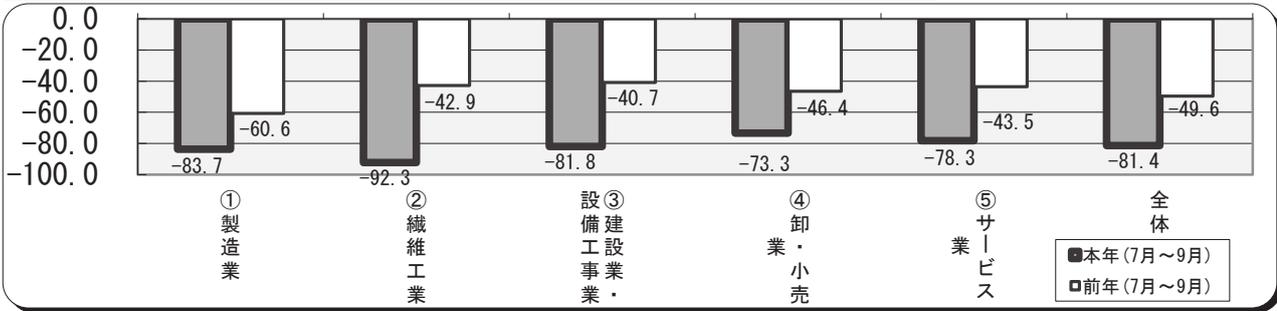
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では0.6ポイント（前年同期▲12.2）とプラスに転じている。業種別では製造業、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業が大幅にポイント上昇しており、マイナス値にある業種もあるものの、全体的に上昇している傾向である。

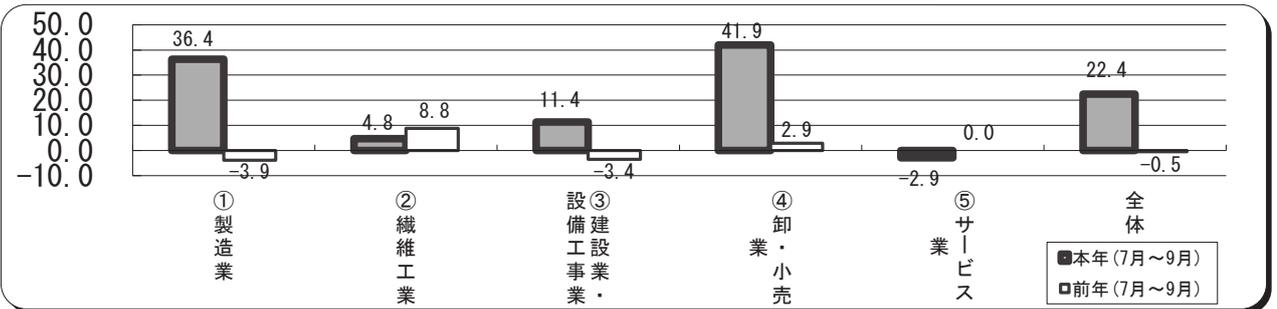
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲81.4ポイント（前年同期▲49.6）と前年同期に比べて31.8ポイントマイナス幅が拡大。業種別では、全業種でマイナス幅が大幅に拡大しており、全体的に仕入価格上昇の傾向にあることが伺える。

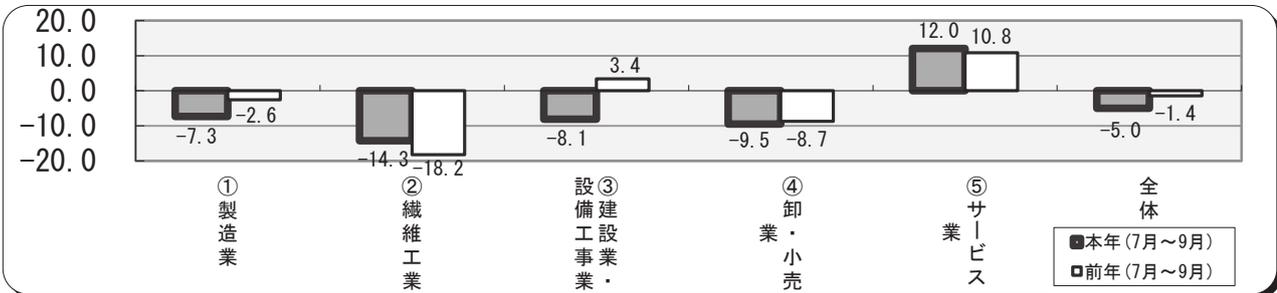
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では22.4ポイント（前年同期▲0.5）と前年同期と比べ22.9ポイント上昇しマイナスからプラスに転じた。業種別では、製造業、建設業・設備工事業が上昇しプラスに転じている他、卸・小売業は41.9ポイント（前年同期2.9）と39ポイント上昇し、上昇が目立つ結果となった。

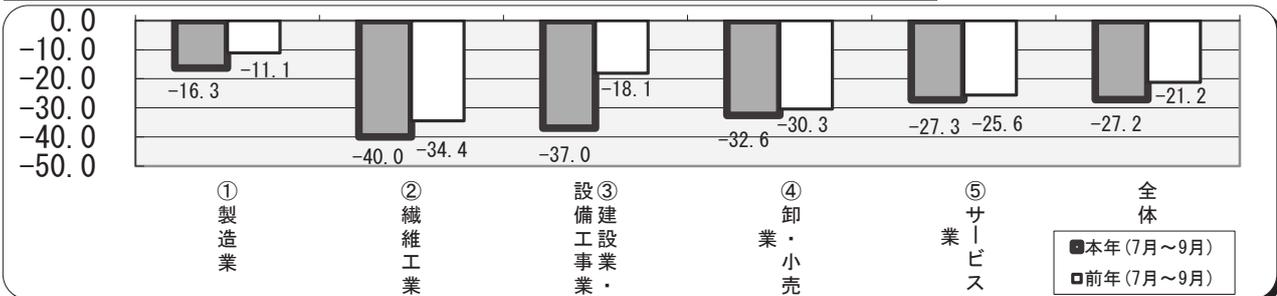
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲5.0ポイント（前年同期▲1.4）と、前年同期と比べると▲3.6ポイントマイナス幅が増加。業種別では、製造業、繊維工業、建設業・設備工事業、卸・小売業でマイナス幅が増加しているが、サービス業では12.0ポイント（前年同期10.8）とプラス傾向を維持する結果となった。

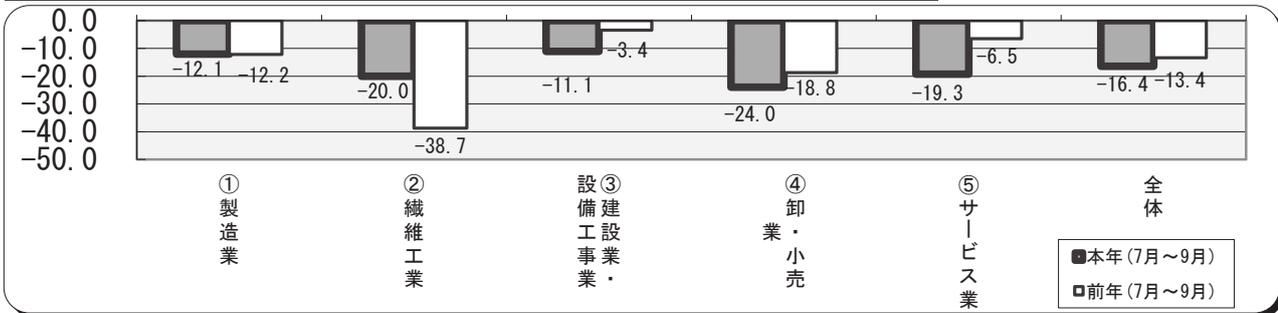
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲27.2ポイント（前年同期▲21.2）と、前年同期と比べて6.0ポイントマイナス幅が増加。業種別では、全業種ともマイナス幅が増加する結果となった。

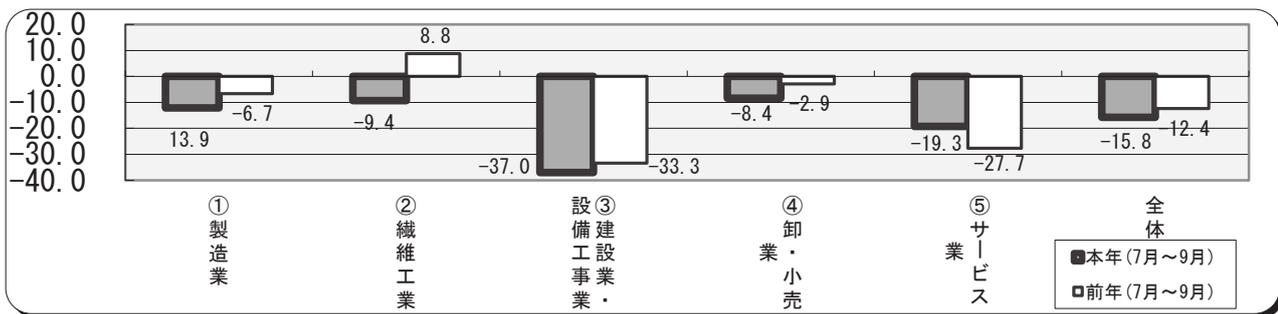
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰りDI】

資金繰りDIは、全体では▲16.4ポイント（前年同期▲13.4）と、前年同期と比べて3.0ポイントマイナス幅が増加した。業種別では、建設業・設備工事業、卸・小売業、サービス業でマイナス幅が拡大。製造業、繊維工業ではマイナス幅が縮小しているが、依然として資金繰りは悪化の傾向にあることが伺えた。

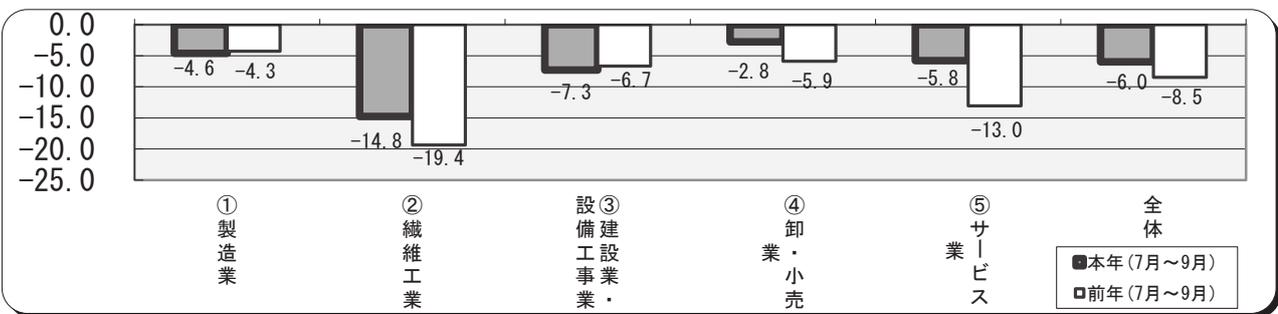
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力DI】

労働力DIは、全体で▲15.8ポイント（前年同期▲12.4）と、前年同期に比べて▲3.4ポイントマイナス幅が拡大。業種別では、繊維工業が▲9.4ポイント（前年同期8.8）とマイナスに転じ、サービス業以外のすべての業種ではマイナス幅が拡大。全体的に労働力の不足が見受けられる結果となった。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

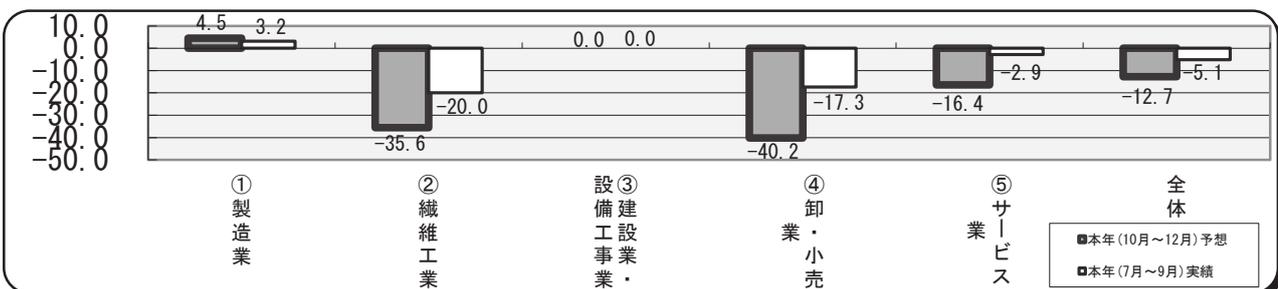


【設備稼働率DI】

設備稼働率DIは、全体で▲6.0ポイント（前年同期▲8.5）と、前年同期に比べて2.5ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、繊維工業、卸・小売業、サービス業はマイナス幅が縮小。一方で、製造業では0.3ポイント、建設業・設備工事業では0.6ポイントマイナス幅が増加している。

II. 今後3ヵ月間(令和4年10月~12月)の推移の予想について

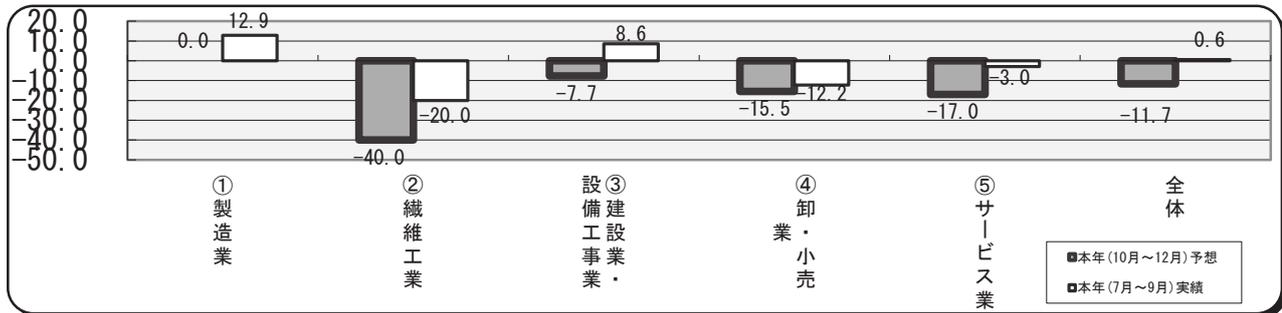
11. 業況は当期(7月~9月期)に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲12.7ポイント(当期▲5.1)と、7.6ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、卸・小売業のマイナス幅が大幅に拡大、繊維工業、サービス業もマイナス幅が拡大し、業況の悪化に不安を抱く結果となった。

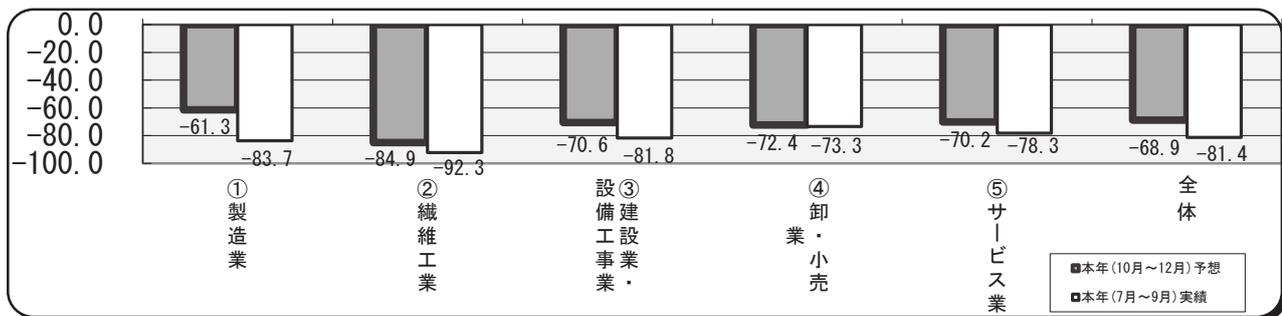
12. 売上高は当期(7月~9月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲11.7ポイント(当期▲0.6)とマイナス幅が拡大する見込み。業種別では、繊維工業は20.0ポイントマイナス幅が拡大、建設業・設備工事業は▲7.7ポイントとマイナスに転じ悪化が見込まれる。その他の業種では、製造業が12.9ポイント減少で0ポイント、卸・小売業、サービス業はマイナス幅が拡大する見込み。

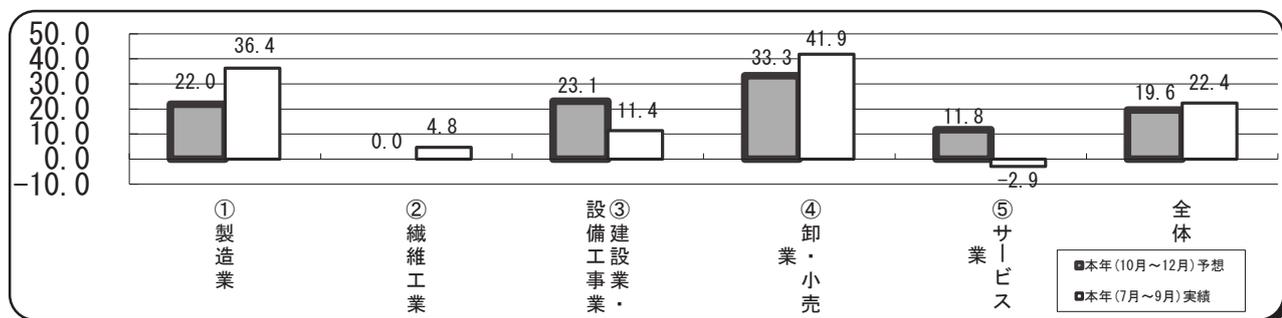
13. 仕入価格(原材料)は当期(7月~9月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料)D Iは全体で▲68.9ポイント(当期▲81.4)と、12.5ポイントマイナス幅が縮小する見込み。業種別では製造業で22.4ポイントマイナス幅が縮小しているが、そのほかの業種でも当期と比べ、依然として価格の上昇が続く見込み。

14. 受注・販売価格は当期(7月~9月期)に比べて



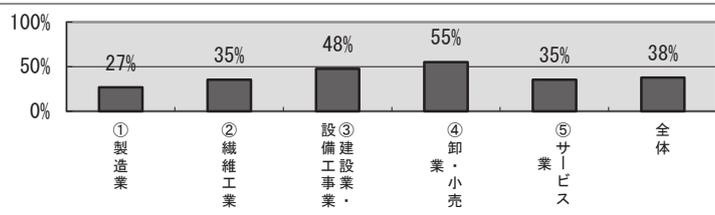
【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは全体で19.6ポイント(当期22.4)と、あまり変わらない見込み。業種別では、全ての業種で受注・販売価格の上昇を予想する回答が多かった。

Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

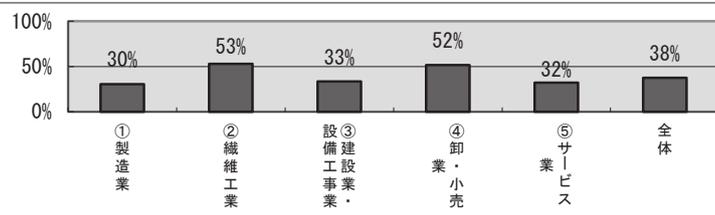
1. 経営の見通し（将来性）

①. 製造業	15
②. 繊維工業	6
③. 建設業・設備工事業	10
④. 卸売業・小売業	16
⑤. サービス業	11
全 体	58



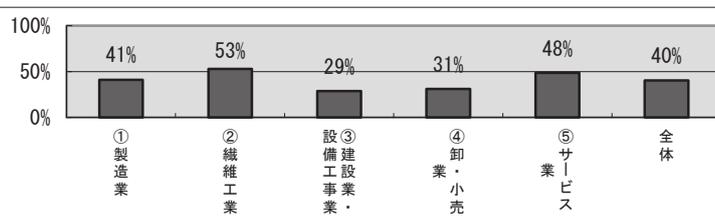
2. 売上（受注）の低下

①. 製造業	17
②. 繊維工業	9
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	15
⑤. サービス業	10
全 体	58



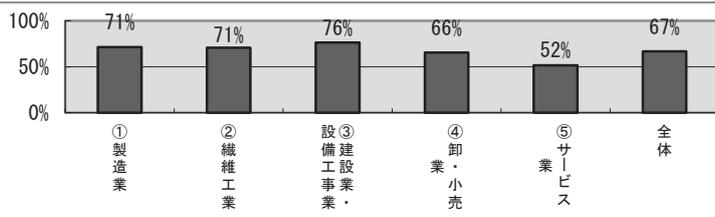
3. 原油価格上昇による収益の悪化

①. 製造業	23
②. 繊維工業	9
③. 建設業・設備工事業	6
④. 卸売業・小売業	9
⑤. サービス業	15
全 体	62



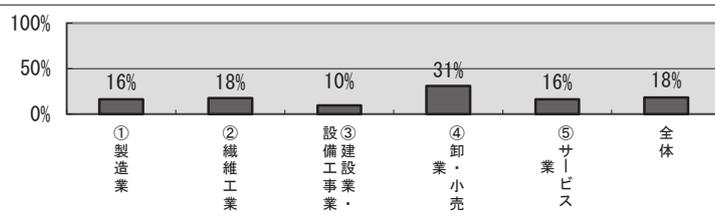
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇

①. 製造業	40
②. 繊維工業	12
③. 建設業・設備工事業	16
④. 卸売業・小売業	19
⑤. サービス業	16
全 体	103



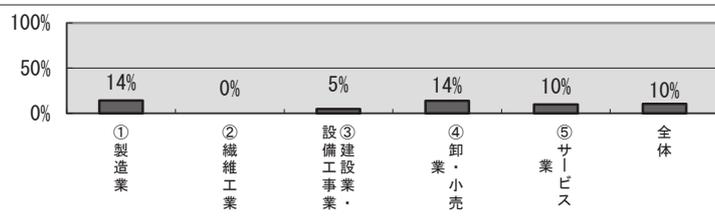
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）

①. 製造業	9
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	9
⑤. サービス業	5
全 体	28



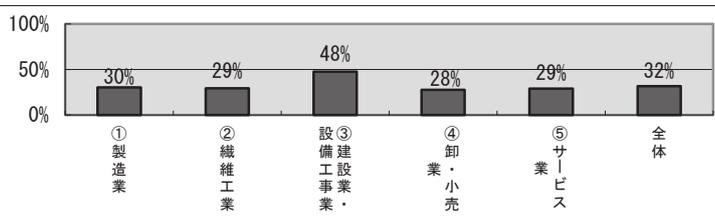
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）

①. 製造業	8
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	3
全 体	16

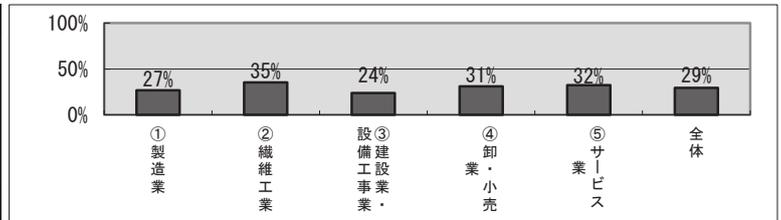


7. 経費（人件費・外注費）の増加

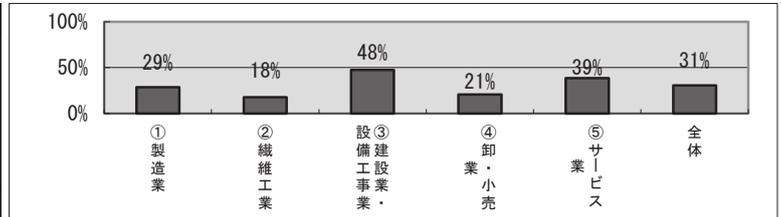
①. 製造業	17
②. 繊維工業	5
③. 建設業・設備工事業	10
④. 卸売業・小売業	8
⑤. サービス業	9
全 体	49



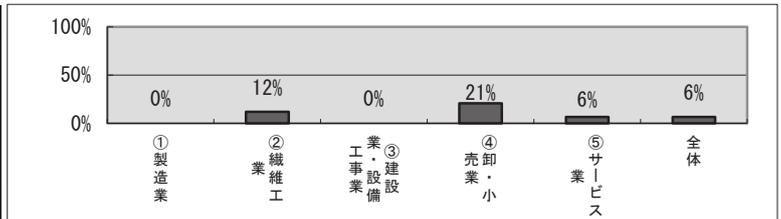
8. 設備・店舗・工場等の老朽化		
①. 製造業		15
②. 繊維工業		6
③. 建設業・設備工事業		5
④. 卸売業・小売業		9
⑤. サービス業		10
全	体	45



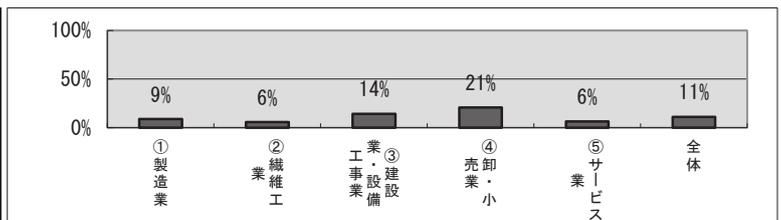
9. 従業員・技術者等の確保難		
①. 製造業		16
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		10
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		12
全	体	47



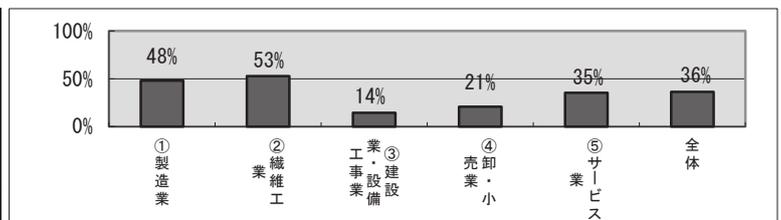
10. 消費者（製品）ニーズの変化		
①. 製造業		0
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		2
全	体	10



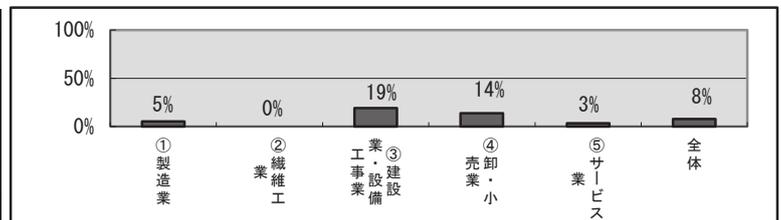
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化		
①. 製造業		5
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		2
全	体	17



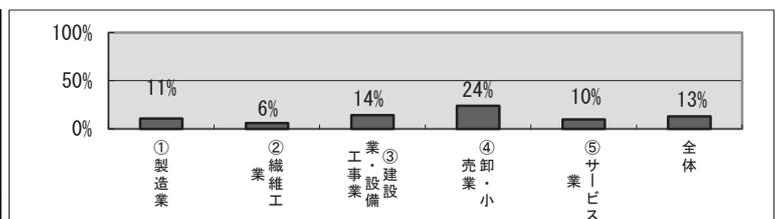
12. 後継者難と事業承継		
①. 製造業		27
②. 繊維工業		9
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		11
全	体	56



13. 改正電子帳簿保存方への対応		
①. 製造業		3
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		4
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		1
全	体	12



14. インボイス制度への対応		
①. 製造業		6
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		3
④. 卸売業・小売業		7
⑤. サービス業		3
全	体	20



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「原材料（商品）仕入価格の上昇」と回答した企業が67%で最も多く、次いで「原油価格上昇による収益の悪化」（40%）、「経営の見通し（将来性）」（38%）、「売上（受注）の低下」（38%）、「後継者難と事業承継」（36%）と続いている。

全業種が「原材料（商品）仕入価格の上昇」を一番の経営上の問題点として挙げており、繊維工業とサービス業では、「原油価格上昇による収益の悪化」の問題が顕著になっている。

【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・自動車関連は依然として半導体不足やコロナウイルスの影響から休業者などが相次ぎ、減産や生産計画変更など不安定な状況が続いている。様々な商品値上がりを受けているが、価格転嫁が追いつかない。
- ・原材料、燃料、人件費、外注費等々各種コストアップが先行し、価格転嫁が追いついていない。見通しも不透明感残り、業務改善には相応の期間を要す見通し。
- ・設備投資すべき仕事が見つからない。
- ・原油価格高騰対策支援金について、同対策が設けられたことは喜ばしいが、各市で助成金額が異なるのはいかなものだろうか。近隣市では上限30万円（足利市は20万円）という市がある。各市予算の都合あるのは理解するが、心情的には金額の差異を目にしてしまうと、何でと思ってしまう。今後、せめて県南地域だけでも不公平感を感じることがないように、各市での情報共有などを検討していただきたい。
- ・仕入れ価格や電気料金がこれまで経験したことのない勢いで上昇しており、今後どうなるのか先行き不安である。
- ・この先も続くのであろう円安の影響が大きい。
- ・円安が追い風となっている。得意先の売上比率は6割以上が海外への売り上げで、部品等はすべて国内調達を行っている。こうした事情から円安が顕著になって以降、売上が急伸している。これを運というのだろう。

◎繊維業

- ・コロナの反動で急激に注文が増えているが、良質なシルク原糸が全く手に入らず受注を断らざるを得ない状況にあり、逆に売り上げが下がる見込み。弊社は加工メーカーであるが、原材料のサプライチェーン再構築の必要性に迫られている。
- ・コロナ第7波による受注減少、売上減に苦しんでいるが、種々の助成金を利用したおかげでどうにか営業を続けています。年末にかけて第8波が来るとのこと、コロナ資金も残り少なくなり改めてコロナマル経資金を申し込みたいが、決算が赤字の場合はだめということ、今、コロナで決算黒字なんてありえない。赤字で苦しんでいるからこそ融資して企業を助けてほしい。

◎卸・小売業

- ・電気料金の値上げが経営を圧迫。
- ・ウクライナとロシアの戦争の長期化、コロナの8波の波瀾、先行きは不安要素が多い。円安もいつ止まるか、高止まりなのかという問題をかかえる中、日本経済は悪化の一途をたどるでしょう。なかにはその中で伸びてくる会社もあり、弊社も打開に向けて前向きに対応していきたいと思います。
- ・ロシアのウクライナ侵攻の景況アンケートの方が影響を受けている企業が多いと思われます。実施を希望します。

- ・為替による変動は直接ありませんが、物価高による対応が急なので、インフレ政策を大々的に打ち出してほしい。日銀の為替介入は評価する。
- ・足利市は市町村合併しないから市の経済力が弱い。人口も少ない。両毛5市で下位。もっと活性化して人が増えることを期待する。

◎ 飲食・サービス業

- ・コロナ禍の中で受けた制度融資の返済が始まり、資金繰りの調整が極めて難しくなっています。特に中小企業はもともと体力が弱く今回のような状況が続くと存続すること自体が困難となります。抜本的な手だてをお願いします。
- ・原材料・光熱費の上昇が急激でかつ大幅。これに取引先への値上げは順調とはいかず、苦戦を強いられてきた。下期はコロナ（第7波）の減少を含め積極的に営業活動に注力したい。
- ・地方経済の活性化。
- ・足利市の活性化のために産業の誘致計画を進めてもらいたい。
- ・コロナウイルス感染拡大も少しずつ減少しているとはいえ、まだ一般には旅行するムードにはなっていません。今年の秋も7月に手配した団体がキャンセルとなりました。コロナ関係で受けた融資の返済が6月から始まっており、来年には銀行の返済も迫っており悩んでおります。良い指導をいただきたく思います。

足利市のチラシ折込調査レポート（2022. 8）

調査地：足利市伊勢町

2022年8月の足利市の折込広告枚数は254枚で、前年比マイナス1.2%（前々年比はマイナス0.4%）であった【※栃木県4地区平均では320.5枚、前年比+9.5%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の59.8%であった。次いでB3(A3)サイズの36.6%となり2種類のサイズが95%以上を占めた。また曜日別では、土曜日が最も多く全体の19.7%に上り、次いで金曜日の16.9%、火曜日の15.7%、水曜日、木曜日、月曜日、日曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが76枚（前年比-1.3%）で、先月に引き続き首位となった。2位は医薬・化粧品で42枚（前年比-8.7%）、3位は家電・精密機器で16枚（前年比+14.3%）であった。4位は輸送機器で15枚（前年比+50.0%）、5位は不動産で15枚（前年比+25.0%）となり、上位5業種の中では、家電・精密機器、輸送機器、不動産が前年を上回る一方、食品スーパー、医薬・化粧品がマイナスとなった。

		3月	4月	5月	6月	7月	8月
足利	枚数(枚)	377	317	263	306	325	254
	前年比(%)	+5.6	▲3.6	▲6.1	+7.0	+3.5	▲1.2
	前々年比(%)	+13.6	+62.6	+82.6	+23.9	+12.1	▲0.4
栃木県平均	枚数(枚)	417.0	382.3	325.3	369.0	373.0	320.5

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2022年8月1日～31日)

順位	業種（細分類）	枚数			前年比(%)	前々年比(%)
		22年	21年	20年		
1	食品スーパー	76	77	72	-1.3	+5.6
2	医薬・化粧品（ドラッグストア・通販等）	42	46	34	-8.7	+23.5
3	家電・精密機器	16	14	26	+14.3	-38.5
4	輸送機器（自動車・カー用品等）	15	10	11	+50.0	+36.4
5	不動産	15	12	9	+25.0	+66.7

サイズ別枚数（2022年8月1日～31日）

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	6	93	152	3
0.0%	2.4%	36.6%	59.8%	1.2%

曜日別枚数

(2022年8月1日～31日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
20	29	40	38	34	43	50
7.9%	11.4%	15.7%	15.0%	13.4%	16.9%	19.7%

調査：(株)栃木読売 IS